

令和版 近江百人一首

写真 / 辻田新也

令和7年8月～9月の2か月間、滋賀の風景や思い出をテーマに短歌を募集し、全国各地より1,022首の応募が寄せられました。これらの作品の中から100首を選び、現代の視点で捉えた「滋賀の魅力」をまとめたものが『令和版近江百人一首』です。選定した百首は滋賀県のホームページで公開し、多くの方に親しんでいただけるよう発信していきます。



特別審査員賞

特別審査員
作家・宮島未奈さん

〈総評〉皆さんの歌を通して、滋賀にはたくさんの魅力があるのだと改めて気付かされました。名所旧跡はもちろん、日常にひそむきらめきにも胸を打たれ、貴重な経験となりました。

第58首 師岡秀雄 〈P.7〉
第88首 高田チヅ 〈P.9〉
第94首 水野幸紹 〈P.10〉

全体監修
歌人・高田ほのかさん

〈総評〉令和版近江百人一首は、千年以上の歴史がもつ風土と、令和に生きる人々の暮らしが三十一音で鮮やかに写し取られています。自然への畏敬、土地への誇り、日常の息づかいが湖に寄せる風のように響きあう、新しい近江の物語がここにあります。

第22首 東辻宜大 〈P.3〉
第66首 くらたか湖春 〈P.7〉
第73首 ふるは ゆう 〈P.8〉
第88首 高田チヅ 〈P.9〉
第100首 蜘蛛野澄香 〈P.10〉

選考委員 滋賀文学会



若歌賞

未来の詩づくりに
繋がる若々しい感性や
新しい表現を評価する賞



滋賀県知事
三日月大造

夏花火
もみじの秋に
冬の山
梅咲く春に
滋賀は輝く

歌意 おかげさまで、四季折々の風景と情感がある湖国・滋賀。「今」「生」きていることを、自然の中に抱かれ囲まれて「在」ることを、感じられるといいですね…。感謝

第1首 大津エリア

作者 片牧結夢

歌意 朝霧に包まれた比叡山を見て、昔から続く祈りの力で、時を超えて受け継がれる思いの大切さを感じて詠んだ歌です。

第3首 高島エリア

作者 中居和平

歌意 琵琶湖最北の海津桜は見事な絶景です。見上げる満開の桜も豪華ながら散って湖面を埋め漂う花筏もまた圧倒的で美しい限りです。

第2首 琵琶湖

作者 かなやわ

歌意 琵琶湖をイメージして走っている様を作品として創りました。

第4首 甲賀エリア

作者 吉田達郎

歌意 電気自動車に乗りトンネルを抜けると、美術館の建物と大自然があります。

第5首 湖北エリア

作者 加藤保典

歌意 姉川の合戦で、信長の焼き討ちから逃れるために土に埋められた十一面観音像のお姿は、実にやさしい眼差しでいらっしやいます。

第6首 湖東エリア

作者 青かべ

歌意 彦根城内には文武両道の進学校・県立彦根東高校があり、私の母校は彦根市の端っこで、勝手にライバル視していました。弱小剣道部の意地をみよ(笑)。

第7首 大津エリア

作者 舞流土

歌意 初めて石山寺を拝観した時、本堂を参拝して更に登った先にとても美しい多宝塔を観た時に「流れているのは汗だけじゃない」と感じました。

第8首 甲賀エリア

作者 西村賢伶

歌意 信楽に行った時に、大きなたぬきが出迎えてくれました。とてもかわいくて癒されたことを思い出して詠みました。

第9首 その他

作者 石島佑華

歌意 子どもの頃、学校の運動会も町の運動会も最後はいつも、皆で輪を作って江州音頭を踊っていたのを懐かしく思い、歌にしました。

第10首 大津エリア

作者 恵

歌意 黄色い銀杏の葉と秋ののどかな季節を表現しました。延暦寺の階段脇で頭に銀杏の葉を一枚のせながら、うたた寝している猫を想像してもらいたいです。

第11首 琵琶湖

作者 柴田つばさ

歌意 長浜で眺めた波立つ雄大な琵琶湖は海のように、でも山々に囲まれている。これが“淡海”かと感じた瞬間を和歌のように詠んでみました。

第12首 高島エリア

作者 藤田桂子

歌意 海津大崎の桜並木に降り立つと空気は凜と澄み、辺り一面桜花の花の精に満たされていることを肌身に感じたことです。

第13首 湖北エリア

作者 吉田 誠

歌意 仕事で滋賀の営業担当をしていた際に職場の方から「是非、木本町のサラダパンをお土産に」と頼まれたことを思い出しました。

第14首 琵琶湖

作者 酒井夏子

歌意 大学時代、共に看護師を目指した親友と卒業の日、別れを惜しみ夜中に琵琶湖一周。夢を語るには十分で、大切な時を過ごした思い出です。

